

見当たらない

クラピグイン・アルチヨム

空を見上げれば、飛行機が一機も見当たらない。

広がる青の絨毯に、雲の跡だけが淡く残る。

海を見渡せば、船は一隻も見当たらない。

ただ波が砂を撫で、引き返す。

静かに流れる壮大なアムール川。

鳥の歌で囁く白樺の森。

夏は三五度で肌が焼け、冬はマイナス三五度で足がかじかむ空気。

直径三キロの小さな町。

新品だったのにもうひびだらけになったアスファルト。

三〇〇円あればフルーツをリュックいっぱい詰められる市場。

いつも扉を開けてくれる古い学校。

筋肉痛になるまで働いた後、苺を満喫できる畑。

レトロラジオが響き渡る古いトヨタイプサム。

家族の笑顔で満ちた家。

それが全部ある場所へ、連れていってくれる飛行機や船が
いくら探しても

一つも見当たらない。